

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立曲川小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。めざす児童像「たくましい子・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送り、90%が学校を「楽しい・まあまあ楽しい」と感じている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。志を高める教育の1つとして、陶芸教室等、地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。学習面では算数科を中心に、中学校区の小中学校が連携して学力向上を図っている。心の教育の面では、いじめ防止や不登校児童対策として、SCやSSW、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいように場の設定や情報提供等を充実させることができた。特別支援教育では、特別支援学校（巡回相談）の協力も得て児童理解に努めた。職員の働き方改革として、各自の意識高揚を図るとともに、働きやすい環境を整えることに努めた。成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	自分から自分で ～自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ児童の育成～
------------	----------------------------------

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		評価	意見や提言
				達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○授業力向上に取り組み、1時間1時間を大切にしたり分かりやすい授業実践	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85%以上	・基本的な学習スタイルを確立し、自ら学ぶ「楽しさ」と、「学び方」を習得させるための取組を実践する。	A	・児童アンケートでは、「勉強はよくわかりますか」の問いに93.5%の児童が「わかる」「だいたいわかる」と回答している。また、保護者アンケートでも、「学校は、学力を身に付けさせるために努力をしていますか」の問いに98.6%の保護者が「思う」「だいたい思う」と回答している。 ・国語と算数の単元テストの正答率は国語が85%、算数が81%だった。12月に実施した、CRT標準学力検査では、全学年の国語・算数、12の検査のうち、8つの検査で全国平均より正答率が高かった。昨年度と比較しても上昇しており、今後も分かりやすい授業実践に向けた取組を継続していくことが求められる。	A	・子どもたち自身が学びたいと思うように、指導や支援を行いながら子どもたちを育ててほしい。 ・少数の学校ならではのきめ細やかな対応が評価できる。 ・楽しく学べることはとてもよい。 ・全国平均より高いことは素晴らしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、Q-Uアンケートで要支援群5%以下にする。	・各学級、道徳の授業参観を年1回以上実施する。 ・「心のアンケート」や「Q-Uアンケート」等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・校内研究や日々の授業の中で、人権・同和教育の視点に留意して取り組む。	A	・「心のアンケート」や「QUアンケート」を生かして教育相談を全学級実施している。 ・冬休みに人権・同和教育の研修に全職員参加し、研修を深めた。 ・道徳の学習で、いじめ防止や人権教育等をテーマにした教材を扱った。 ・QUアンケートの結果では、要支援群に該当した児童は全体の1%であった。	A	・少数(1%)の問題でも引き続き取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事案対応において、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日々の観察とともに、「心のアンケート」や「Q-Uアンケート」を実施して児童の実態を把握する。その結果をもとに、個別に面談を行い、いじめ等の早期発見に努める。また、いじめについての研修を行い、児童の把握やいじめのメカニズム等について理解を深める。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行う。	A	・「いじめ防止や早期発見のための取り組みや事案対応において、組織的対応ができている」と肯定的に回答した教員は100%であった。また、保護者アンケート「いじめの早期発見・早期対応をするよう努めているか」で、「している」「どちらかというとしている」の回答は97.3%であり、ほとんどの保護者から好意的な回答が得られている。いじめなどの事案に限らず、児童の気付きは保護者へすぐに連絡・相談するなど、日頃から職員と保護者の連携が取れていると考えられる。 ・人権・同和教育の研修会を持ち、教師の資質向上に努めた。	A	・子どもが困った状況になった時は、子どもからすると「話す」と怒られるかも」という場合もあると思うが、まずは「信頼してくれてありがとう」「話してくれてありがとう」という気持ちを伝えた上で肯定や共感を示す事を大事にしてほしい。 ・早期の取組が重要と考える。
●心の教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設け、キャリアパスポートを活用する。(学校行事に関連づける。) ・ゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。	A	・児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」で肯定的な回答94.3%、「将来の夢や目標を持っている」で肯定的回答93.9%であった。 ・教師アンケート「各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設けた」の項目で肯定的な回答は88.9%であった。 ・キャリアパスポートの活用は年に4回以上書くことを各学年行った。	A	・子どもたちがいろいろなことを試す中、成功も失敗もありその中で「あ！これおもしろい」が芽を出しいつか夢につながる時に、大人の役目として子どもの好奇心を守ってあげられればと思う。

●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツ、外遊びを行う日が1週間で4日以上の子童90%以上	●マラソントイムや運動委員会企画の全校遊びを実施することで子童の外遊びの機会を増やし、運動への意欲を高める。 ●担任からの声掛けにより子童が外で遊ぶ機会を確保する。	B	●子童へのアンケートでは「1週間うち半分以上体を動かしている」と答えた子童が87.8%だった。教職員へのアンケートでは、全員が子童の体力向上に努めたと回答した。 ●マラソントイムを実施し、子童の運動する機会を確保したり、体力向上を目指したりした。教職員からの声掛けも合わせて行うことで多くの子童が参加することができていた。 ●目標を達成できなかった内容について、改善を目指し今後も継続して取り組んでいく。	A	●子どもたちは朝の時間や昼休みによく外で遊んでいる。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」と回答した子童90%以上	●各学年で計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育授業を年1回以上実施する。	A	●健康に気をつけてバランスよく食べていると回答した子童は92.7%だった。 ●すべての学級で食育の授業を実施し、子童の食に対する意識向上に取り組んだ。今後も食育の授業はもちろん、日々の給食指導でも子童の食に対する興味関心が向上するような指導を継続して行っていく。	A	●毎日の食事で「おいしいものを食べる」より「おいしく食べる」時間であってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●職員1人当たりの年次休暇の年間取得日数14日以上を目指す。	●管理職は、教職員の在校等時間の実態を正確に把握し、随時適切な声かけを行う。 ●長期休業中の校内研修等を精選し、教務と連携して休暇を取得しやすいスケジュールづくりに努める。 ●ICT支援員と連携しながら、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。	B	●全職員の時間外在校等時間の月平均(4月～1月)は14.4時間で、個人差はあるが概ね目標を達成できた。職員アンケート「勤務時間を意識した働き方や有効な時間活用ができた」の肯定的な回答も100%で、昨年度の89.6%を上回った。管理職自らが率先して時間外在校時間を減らすよう努めたことが成果につながったと考える。 ●「年次休暇の年間取得日数14日以上」が達成できなかった職員は10名であった。比較的年休が取得しやすい長期休業中に経年研修等が実施されたり、年休ではなく他の休暇(特休、配給等)を活用したりと、その要因はいくつか考えられるが、いずれにしても全職員が年間14日取得するというハードルはかなり高いように思われる。	B	●時間外勤務超過は難しい問題でもあり、長期的な取組が必要。
	○会議の開催方法の改善、時間短縮と内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内とする。	●部会での検討を十分に行い、会議での検討内容を精選しておく。 ●職員フォルダに資料を事前に入れ、一読しておくことで協議の時間を確保する。	A	●職員連絡会の回数と内容を精選したため、放課後に学級事務や教材研究等をする時間を確保できた。 ●部会での検討を十分に行い、職員会議は概ね1時間以内で終わることができた。	A	
●特別支援教育の充実	○特別な支援や配慮を要する子童に対する意識と教員の専門性の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上	●特別支援学級担任の授業公開を3回実施する。 ●特別支援教育に関するアンケートを行い、実態把握をしていくことで学級経営や授業・子童支援につなげる。(アンケート8月と1月の2回実施)	A	●特別支援学級の授業公開を通して、子童の実態に応じた指導や、支援の在り方について提案をすることができた。 ●職員アンケートの結果より、「特別支援教育の研修会や気になる子の共通理解を行うとともに、必要に応じた支援会議を実施することで、特別支援に関する専門性が向上した。」について、「向上した」「どちらかというと向上した」と回答した職員が100%であった。	A	●自閉タイプの子童たちとADHDタイプの子童たちが同クラス的环境はつくづく感じる子童がいるのではと感じる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくりの推進	○保護者・地域との連携と体験活動の充実	○「学校は、よく情報を伝え、保護者の相談や要望に誠実に対応している」と実感する保護者80%以上 ○地域等と連携した教育活動を各学年2回以上実施する。	●学校・学級・保健などの通信を定期的に発行するなど、学校の取組を積極的に発信する。 ●コミュニティ・スクールの特性を生かし、学校運営協議会委員やPTAと連携しながら、地域学習や体験活動を充実させる。	A	●保護者アンケートの「学校は、おたよりやアプリ等で情報を十分発信していると思いますか」の肯定的な回答は98%であった。今後も学校HPやアプリ等を活用し、積極的に保護者や地域と連携をとっていきたい。 ●柿右衛門展をはじめとする焼き物に関する活動や、登校時の見守り活動、親子レク等のPTA活動等、本校は地域・保護者と学校が一体となって取り組む教育活動がとて充実している。今後もぜひ継続していきたい。	A	●運営協議会委員として、地域(区・人)の特色を活かした活動の提案をしていきたい。 ●地域との連携を良好に行っている。 ●ICTを利用して情報共有ができていると思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>●本校教育の重点目標である「自ら考え、判断し、主体的に行動する子童の育成」を目指し、今年度も「自分から 自分で」を合い言葉に、学校と保護者・地域が一体となって様々な視点から教育活動に取り組んできた。アンケートで、95%以上の子童が「学校が楽しい」と回答したのは、その成果だと考えている。</p> <p>●「柿右衛門展」をはじめとする陶芸教室は、長年続く本校独自の取組であり、地域人材と交流しながら伝統工芸に触れることで、地域を誇りに思う子童が育っている。今後も、地域性を生かした様々な体験活動を展開していきたい。</p> <p>●学習面では、算数科を中心に学力向上を図ってきた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して取り組んできたことが、子童の主体性を高めることにつながったと考える。CRTの結果もほとんどの学年で昨年を上回った。</p> <p>●成果と課題をしっかりと把握・分析し、改善に努めていきたい。学校目標の達成に向け、今後も尽力していく。</p>
----------------	--